

ラモトリギン錠「JG」を服用される 患者さまとご家族の方へ

重篤な皮膚障害について

● ラモトリギン錠「JG」の服用中に、重篤な皮膚障害（広範囲にわたり赤くなり、やけどのような水ぶくれ、皮膚のはがれ、ただれなどが全身に広がる）があらわれることがあります。副作用が疑われた場合には早期に適切な治療を受けてください。

● 下記のような症状があらわれた場合には、すぐに医師・薬剤師に相談してください。

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・発疹 ・唇や口内のただれ ・のどの痛み ・リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ | <ul style="list-style-type: none"> ・発熱（38 度以上） ・目の充血 ・体がだるい |
|--|--|

発疹



発熱（38 度以上）



唇や口内のただれ



目の充血



のどの痛み



体がだるい



リンパ節のはれ
（首、わきの下、股の付け根など）



- 医師・薬剤師に相談する際は、本剤を服用していることを伝えてください。
- 医師から本剤の服用を中止するよう指示された場合は、すぐに中止してください。

● 必ず医師・薬剤師の指示通りに服用してください。

- ・医師から指示された服用量および回数を守って服用してください。（定められた服用量および回数を超えてラモトリギン錠を服用した場合に皮膚障害の発現率が高いことが示されています）。
- ・自己判断で本剤を中止したり、本剤の量を変えたりしないでください。

- 医師から本剤の服用を中止するよう指示された場合は、すぐに中止してください。自己判断で本剤の服用を再開しないでください。
- 医師から皮膚科への受診を指示された場合は、ただちに皮膚科を受診し、本剤を服用していることを伝えてください。
- 本剤は患者さまの体質や病気の症状、飲んでいる薬によって、効果や副作用の出かたが違ってきます。そのため、患者さまの安全性を考えて、ごく少量から始め、効果の出かたと副作用のかね合いをみながら、適切な量を慎重に決めていきます。最終的な量が決まるまでの期間は、数週間から数か月ほどです。短時間で量を増やすと、重篤な皮膚障害が出やすいことがわかっています。あわてず、じっくりと本剤とつき合ってください。
- 他の薬（市販の薬を含む）と一緒に飲む場合は、あらかじめ医師・薬剤師に相談してください。また、何か別の病気ではほかの病院にかかる場合は、本剤を飲んでいることを担当の医師に伝えるか、本剤を持って行って医師にみせてください。一緒に飲んでいる薬の種類によって、本剤の量を変える必要があります。
- 皮膚障害が現れる率が高くなったり、発疹が悪化する危険性が高くなるのは、次のような場合です。

- ・急に本剤の量を増やしたり、適切な量以上に飲んだ場合
- ・13歳以下の小児の方
- ・バルプロ酸ナトリウム(デパケン、デパケン R、セレニカ R など)という薬を飲んでいる場合
- ・薬疹の既往のある方
- ・本剤を飲み始めて8週以内

次のような重大な副作用があらわれることがあります。

- 重篤な皮膚障害（中毒性表皮壊死融解症および皮膚粘膜眼症候群）
ちゅうどくせいひようひ え し ゆうかいし ゅう ひ ふ ねんまくがんしやうこうぐん
- 薬剤性過敏症候群（発疹、発熱、リンパ節のはれ、顔のむくみ、血液障害、肝機能障害など）
やくざいせいかびんしやうしやうこうぐん かんきのうしやうがい
- 再生不良性貧血、汎血球減少、無顆粒球症
さいせいふりやうせいひんけつ はんけつきゅうげんしやう むかりゅうぎゅうしやう
- 血球貪食症候群
けつきゅうどんしよくしやうこうぐん
- 肝炎、肝機能障害および黄疸
かんえん かんきのうしやうがい おうだん
- 無菌性髄膜炎（項部硬直、発熱、頭痛、悪心・嘔吐または意識混濁など）
むきんせいずいまくえん こうぶこうちよく はつねつ ずつう おしん おうと いしきこんだく

他に気になることがありましたら、医師・薬剤師にご相談ください。

～ご家族の方へ～

◎本剤により、発疹や重篤な皮膚障害があらわれることがあり、その発現時期は通常8週間以内が多いです。特にバルプロ酸ナトリウムと併用する場合や、小児の患者さまが使用する場合には気をつけてください。小児の患者さまでは、発疹の初期徴候は感染と間違えやすいので、8週以内に発疹や発熱があらわれた場合には注意が必要です。皮膚障害の発現に注意し、異常が認められたら、ただちに医師・薬剤師に連絡してください。